

## 社会学研究科

## I 2022年度 大学評価委員会の評価結果への対応

## 【2022年度大学評価結果総評】(参考)

社会学研究科の修士課程では、論文執筆に向けた研究活動を支援し指導する「総合演習」を、2つのコース合同で実施して学生相互の研究交流を進展させている。博士後期課程においては、学術雑誌への論文投稿に向けて模擬査読を行う「社会学総合演習 A」や、英語による研究成果の公表のための「社会学研究 1」を着実に開講している。このように、リサーチワークとコースワークの連携が密接に図られている点が高く評価できる。

社会貢献への取り組みとして、公開シンポジウム(第31回社学コロキウム)をオンラインで試行的に共催したこと、2つの大学院特定課題研究所が独自の活動成果を提示したことにより、研究科の存在を対外的にアピールできている。

このように、手厚い教育指導体制と社会貢献型の研究組織を持つことを全面的に告知することにより、一層の入学生確保をめざしていただきたい。

## 【2022年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

「総合演習」は継続的に2つのコース合同で実施し、学生相互の研究交流を進展させている。博士後期課程では、学術雑誌への論文投稿に向けて模擬査読を行う「社会学総合演習 A」、英語による学術論文執筆に向けた「社会学研究 1」についてオリエンテーションなどを通じて参加を促している。引き続きリサーチワークとコースワークの連携が密接になるよう取り組んでいく。

また、2022年度末に社会学・メディア両コースの統合に向けたワーキンググループを設置した。このワーキンググループでの議論を踏まえつつ、社会貢献や入試広報についても取り組んでいく予定である。

## II 自己点検・評価

## 1 教育課程・学習成果

## (1) 点検・評価項目における現状

## 1.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

## 1.1①授与する学位ごとに、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を記入してください。

## &lt; 修士課程 修士(社会学) &gt;

社会学研究科は、所定の単位の修得、および学位論文の審査によって、つぎに示す能力を有すると認められる者にたいして「修士(社会学)」の学位を授与する。

DP1. 各コースの領域に即した基本的な研究遂行能力。

DP2. 各コースの領域における理論的な成果を的確に理解し、自らの研究にそれを生かせる能力。

DP3. 各コースの領域における様々の個別なテーマについての的確に理解し、分析する能力。

DP4. 学際的なテーマについての的確に理解し、分析する能力。

DP5. 院生各自の研究テーマに応じた高度な調査能力。

DP6. 院生各自の研究テーマに応じた外国語能力。

DP7. 院生各自の研究テーマに必要な学識や方法を身につけ、論理的かつ説得的な議論を展開できる能力。

## &lt; 博士後期課程 博士(社会学) &gt;

社会学研究科は、所定の単位の修得、および学位論文の審査によって、つぎに示す能力を有すると認められる者にたいして「博士(社会学)」の学位を授与する。

DP1. 諸先行研究の成果を十分に理解し、批判的に再構成し、自らの研究テーマに即して応用できる能力。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

DP2. 自らの研究テーマに即した高度に専門的な調査能力。	
DP3. 博士の学位にふさわしい専門的な学術論文を、問題構成から執筆に至るまで自立して研究を遂行し、当該分野の学術的発展に貢献できる能力	
1.1②上記のディプロマ・ポリシーには、授与する学位において学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果が示されていますか。	はい
1.1③上記のディプロマ・ポリシーを公表していますか。	はい
【根拠資料】	
<a href="https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/daigaku_in/#a06">https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/daigaku_in/#a06</a>	

## 1.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

1.2①授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を記入してください。	
<p>社会学研究科における教育研究は、現代社会の諸問題をそのなかで生きる人間のあり方に注目して解明し、目標にすべき価値と多様な社会生活の場でそれを実現する方法を探求することを、基本的な特徴としている。教育課程の編成と実施にあたっては、社会学を基本としながら、それに隣接する社会諸科学、人文諸科学の科目を配することによって、現代社会の諸問題と、そのなかで生きる人間のあり方に注目した教育研究を進める。以上の方針にそって、社会学研究科は以下のようにカリキュラムを編成している。</p> <p>&lt; 修士課程 &gt;</p> <p>修士課程では、社会学の課題領域に応じて社会学コースとメディアコースとにわけ、各領域の学問的成果の蓄積と将来の方向性を大学院生が適切に学べるようにするとともに、院生各自の研究テーマに沿ってゼミナール形式で学べる、つぎのような教育を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各コースの領域に対応した「基礎演習」を複数開講し、それぞれの領域に即した学習とともに、院生相互の研究交流も促進させる。</li> <li>2. コースごとに「総合演習」を設置し、修士論文の問題構成と構想から執筆に至るまでの過程を、教員全体で集团的に指導する。</li> <li>3. 院生各自の研究テーマに結びつくたちでの調査能力、実践的研究能力の向上を図るために、方法系科目群として「専門社会調査士」資格の取得につながる科目や「メディア研究実習」といった科目を設置する。</li> <li>4. 関東圏の社会学系大学院の単位互換制度に加入し、大学院での開かれた履修機会を用意する。</li> </ol> <p>&lt; 博士後期課程 &gt;</p> <p>博士後期課程では、院生に対し「学位論文までの里程碑」を示し、博士学位取得に必要な研究が適切に遂行できるように指導するとともに、すべての設置科目を単位化し、とくにつぎのような研究指導を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各セメスターに、博士学位取得に必要な研究を適切に遂行できるように指導する科目として「博士論文指導」を配置し、指導教員がゼミナール形式の論文指導を行う。</li> <li>2. 査読を経て掲載される学術誌などの投稿論文の執筆を指導する科目（「社会学総合演習 A」）、教員全体で博士学位申請論文の執筆を指導する科目（「社会学総合演習 B」）を設置する。</li> <li>3. 英語による学術論文の執筆を指導するための科目（「社会学研究（Academic English Writing Skills for the Social Sciences）」）を設置する。</li> </ol>	
1.2②上記のカリキュラム・ポリシーには、授与する学位において学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成（教育課程の体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業	はい

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

形態等) 方針が示されていますか。	
1.2③上記のカリキュラム・ポリシーを公表していますか。	はい
【根拠資料】	
<a href="https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/kyoiku_katei/daigaku_in/#a06">https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/kyoiku_katei/daigaku_in/#a06</a>	
1.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
1.3①「法政大学大学院学則」第15条(「単位」)に基づいた単位設定を行っていますか。	はい
1.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
1.4①学生の履修指導を適切に行っていますか。	はい
1.4②シラバスの内容の適切性と授業内容とシラバスの整合性を確保していますか。	はい
1.4③研究指導計画(研究指導の内容及び方法、年間スケジュール)を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい
1.4④研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2023 新入生オリエンテーション資料</li> <li>● 修士論文提出までのタイムスケジュール</li> <li>● 博士論文への里程碑</li> </ul>	
1.5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
1.5①「法政大学大学院学則」第20条の2(入学前既修得単位の認定)に基づき、既修得単位などの適切な認定を行っていますか。	はい
1.5②「法政大学大学院学則」第22条(修了要件)、第26条(修了要件)に基づき、修了の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、予め学生に明示していますか。	はい
1.5③成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置を講じていますか。	はい
1.5④学位論文審査基準を定め、文章等によって予め学生に明示し公表していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 法政大学大学院社会学研究科学位論文審査基準</li> </ul>	
1.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
1.6①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定をしていますか。	はい
1.6②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標に基づき学生の学習成果を把握していますか。	はい
1.6③学習成果を可視化していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2021年度研究業績目録 <a href="https://www.hosei.ac.jp/application/files/8616/5464/9539/2021.pdf">https://www.hosei.ac.jp/application/files/8616/5464/9539/2021.pdf</a></li> </ul>	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

1.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。

また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

1.7①授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	はい
1.7②大学評価室による学生調査結果（新入生アンケート・修了生アンケート）を組織的に利用していますか。	はい
【根拠資料】	
● 2022年度第6回教授会議事録、2022年度第10回教授会議事録	

(2) 特色・課題

以下の項目の中で、研究科として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを選択し、記入をしてください。	
【教育課程・教育内容】【教育方法】【学習成果】それぞれの項目の中で「特色」または「課題」を選択し、内容について記入してください。	
【教育課程・教育内容】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性と連関性の検証</li> <li>・学生の能力育成のための、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容の適切な提供</li> <li>・コースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせた教育の提供</li> <li>・専門分野の高度化に対応した教育内容の提供</li> <li>・大学院教育のグローバル化推進のための取り組み</li> </ul>	
特色	修士課程・博士課程
コースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせた教育の提供	
<p>修士課程では、各コースの領域に対応した「基礎演習」を開講し、各領域に即した学習を行っている。また「総合演習」では、修士論文の問題構成と構想から執筆に至るまでの過程を、教員全体で集団的に指導している。</p> <p>博士課程では、学術雑誌への論文投稿に向けて模擬査読を行う「社会学総合演習 A」、教員全体で博士学位申請論文の執筆を指導する「社会学総合演習 B」、英語による学術論文執筆に向けた「社会学研究 1」を用意している。</p> <p>このように修士・博士両課程において、リサーチワークとコースワークを適切に組み合わせた教育を提供している。</p>	
【教育方法】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育上の目的を達成するための、効果的な授業形態の導入（PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）</li> <li>・授業がシラバスに沿って行われているかの検証（後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）</li> </ul>	
特色	修士課程・博士課程
教育上の目的を達成するための、効果的な授業形態の導入（PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）	
<p>アフターコロナ、ウィズコロナにおける授業のあり方について検討することを中期目標に掲げており、オンライン授業などコロナ禍における授業の利点や課題などを大学院生との懇談会において聞き取りを行い、その結果を教授会で共有している。大学院生からは授業や「総合演習」のオンライン活用に高い評価があった。留学生からは交流機会確保のために対面を求める声もあり、オリエンテーションを対面に切り替えて交流の機会を作るなど、効果的な授業形態の導入に取り組んでいる。</p>	
【学習成果】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価及び単位認定を行うための制度や学位授与の実施手続き及び体制についての適切な運用</li> <li>・学位の水準を保つための取り組み</li> <li>・学習成果を把握する取り組み</li> <li>・学習成果を定期的に検証し、その結果をもとにした教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向け</li> </ul>	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

た取り組み	
特色	修士課程・博士課程
学位の水準を保つための取り組み	
<p>修士・博士ともに「法政大学大学院社会学研究科学位論文審査基準」を定め、学生に周知している。修士課程では、オリエンテーションで「修士論文提出までのタイムスケジュール」を提示している。学習成果を「基礎演習」と「総合演習」で把握し、修士論文審査と口述試験において学位水準を確認している。博士課程では、オリエンテーションで「学位論文までの里程標」を提示している。学習成果を「社会学総合演習 A」と「社会学総合演習 B」で把握し、博士学位審査論文審査委員会において学位水準を確認している。</p>	
<p>その他、上記項目以外で研究科として「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。</p>	
特色	
課題	

## 2 学生の受け入れ

### (1) 点検・評価項目における現状

#### 2.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

2.1①研究科ごとに学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を記入してください。	
<p>&lt;修士課程&gt;                  修士課程では、社会学、隣接する社会諸科学、人文諸科学の分野に強い学問的関心を持つ、つぎのような人材を広く求める。                  1. 社会学、メディア論、国際社会論の領域で、社会の諸問題をめぐって独立した研究能力を形成する意欲のある人材。                  2. 社会についての豊かで深い学識を備え、メディア企業・国際機関・一般企業などで働く専門的職業人を目指す人材。                  3. 社会人としての経験をもとに、社会をめぐり豊かで深い学識を形成し、実践的に課題の解決に向かおうとする人材。                  このため、入学試験では、社会学、メディア論、国際社会論の領域における専門的知識と語学力が一定水準に達しているかが判定される。また「社会人入試制度」を設けて、社会人を積極的に受け入れる。</p> <p>&lt;博士後期課程&gt;                  博士後期課程では、社会学、メディア論、国際社会論の領域で学術的研究をさらに深く追求しようという意欲を持つ次のような人材を広く求める。                  1. 博士論文執筆に必要な高度な学識と思考力、および分析力を持つ人材。                  2. 博士論文執筆に向けて自立して研究を遂行しようという強い意欲を持つ人材。                  3. 研究遂行に必要な英文読解力を持つ人材。</p>	
2.1②上記のアドミッション・ポリシーには、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえた、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法が明確に示されていますか。	はい
2.1③上記のアドミッション・ポリシーを公表していますか。	はい

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。



【根拠資料】  
[https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/ukeire\\_hoshin/daigaku\\_in/#a06](https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/ukeire_hoshin/daigaku_in/#a06)

2.2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

2.2①アドミッション・ポリシーに基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制をどのように適切に整備していますか。また、入学者選抜をどのように公正に実施していますか。

修士課程入試では、筆記試験と面接試験を行っている。学部で成績優秀者に出願資格を与える学内入試では面接試験を行っている。面接試験では、提出された研究計画書をもとに選抜を行っている。博士後期課程入試は、筆記試験と面接によって行い、面接では提出された修士論文または研究論文をもとに各受験者に3人の審査委員を決めて選抜を行っている。筆記試験、面接試験、それぞれの結果に対し、研究科教授会で合議を行うことで入学者選抜を公正に実施している。

2.3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

2.3①【2023年5月1日時点】研究科・専攻における収容定員充足率は、下記の表1の数値を満たしていますか。	いいえ
--	-----

2.4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

2.4①上記項目において【いいえ】と回答した場合は、その理由と改善に向けた今後の取り組みについて記入してください。

近年、合格者が減少している状況を踏まえ、入試制度における現状と課題の確認を行った。入試においてコースを跨いで指導教員を指名するケースがあることやメディアコース設置時の社会人の受験が少ないことなどのニーズをデータなどで確認し、教授会懇談会で議論した。その結果、2023年度に両コースの統合に向けたワーキンググループを設置し、社会学研究科が取り組むべき教育課程と教育内容のあり方について検討することになった。ワーキンググループにおいて学生の受け入れに関する課題について議論していく。

表 1

研究科・専攻における収容定員に対する在籍学生数比率	修士課程	0.50以上 2.00未満
	博士課程	0.33以上 2.00未満

### 3 教員・教員組織

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

3.1①研究科の求める教員像および教員組織の編成方針を記入してください。

カリキュラムを的確に展開できる教員組織の編成を実現すべく、各コースの設置科目を主担当とする教員を任用し、充足できない科目については適宜兼任講師を採用している。

3.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

3.2①研究科の教員組織の編制は、理念・目的、教員組織の編制方針に整合していますか。	はい
3.2②教員組織の規模について、教育研究上必要となる数の専任教員がいますか。	はい
3.2③専任教員の専門性や、主要科目への配置など、教育を実施するうえでどのような体制をとっていますか。	
教員組織の円滑な世代交代に向けて、定年退職予定教員に関する情報を教授会懇談会で共有し、今後の後任人事に関連する議論を行っている。	

## 3.3 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

3.3①教員の募集、採用、昇任等の手続きや運用に関する規程は整備されていますか。	はい
3.3②上記の規定は、公正性、適切性が担保されるよう適切に運用されていますか。	はい
【根拠資料】	
法政大学大学院社会学研究科担当教員の資格に関する基準（内規）	

## 3.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

3.4①研究科（専攻）内のFD活動は組織的に行われていますか。	はい
3.4②上記項目について【はい】と回答した場合は、2022年度のFD活動の実績（開催日・テーマ・参加人数）を記入してください。	
年1回、教授会懇談会を開催し、研究科においてFDに関連した情報を共有し、議論する機会を設けている。チューター制度、授業形態（オンラインなど）の反応、留学生に対する指導、コースの今後などを議題として取り上げている。	
3.4③研究科（専攻）内において研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	はい
3.4④上記項目で【はい】と回答した場合は、研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための取り組みの実績（開催日・テーマ・参加人数等）について記入してください。	
2つの大学院特定課題研究所を中心に研究推進、他機関との連携が行われている。「メディア環境設計研究所」では9月13日に「ワクワク移動のためのイノベーション」をテーマに研究会を実施し、メッシュワークの比嘉夏子氏の講演、大阪ガスの取組事例が紹介され、約30人の参加があった。「日本放送脚本データベース研究所」では、「日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム」と連携し、放送脚本の収集・デジタル化に関する研究を実施している。	

## 4 学生支援

## (1) 特色・課題

以下の項目の中で、研究科として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを選択し、内容について記入をしてください。
<b>【学生支援】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の能力に応じた補習教育、補充教育</li> <li>・学生の自主的な学習を促進するための支援</li> <li>・学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）への対応</li> <li>・成績不振の学生の状況把握と指導</li> <li>・外国人留学生の修学支援</li> <li>・オンライン教育を行う場合における学生への配慮（相談対応、授業計画の視聴機会の確保等）</li> </ul>

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

特色	修士課程・博士課程
外国人留学生の修学支援	
外国人留学生と留学生サポートするチューターに対し、それぞれ院生懇談会を実施している。留学生からはチューター制度に対する高い評価があり、チューターからは添削方法などについて改善や工夫が提案された。懇談会での意見や提案は教授会に共有し、きめ細かい外国人留学生の就学支援を行っている。	
その他、上記項目以外で研究科として「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。	
特色	
課題	

## 5 教育研究等環境

### (1) 点検・評価項目における現状

#### 5.1 研究倫理を遵守するための必要な措置を講じ、適切に対応しているか。

5.1①研究科として研究倫理の向上及び不正行為の防止等について、公正な研究活動を推進するための適切な措置を講じていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2023 新入生オリエンテーション資料</li> <li>● 責任ある研究活動のために～研究倫理教育のご案内</li> </ul>	

## III 2022 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	社会的課題を踏まえ、社会学研究科が取り組むべき教育課程や教育内容のあり方について検討する。	
年度目標	社会学コースとメディアコースの現状と課題について確認する。	
達成指標	社会学コースとメディアコースについて教員間で議論を行い、現状と課題について確認する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	教授会懇談会で社会学コースとメディアコースの現状と課題を確認した上で、2023 年度に両コースの統合に向けたワーキンググループを設置し、コースのあり方について検討することにした。
	改善策	－
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	教員がそれぞれに考えていた2コース設置の課題が教授会懇談会で整理、共有されて、両コース統合に向けたワーキンググループが設置されることになったのは高く評価できる。統合に向けた具体的な議論の進捗を期待する。
改善のための提言	－	
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
中期目標	アフターコロナ、ウィズコロナにおける授業のあり方について検討する。	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。



年度目標	オンライン授業などコロナ禍における授業の利点や課題などを確認する。	
達成指標	オンライン授業などコロナ禍における授業の利点や課題について、院生から聞き取りを行う。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	院生懇談会において、コロナ禍における授業の利点や課題について聞き取りを行い、その結果を教授会で共有した。
	改善策	－
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	院生の経験したオンライン授業の具体的な長短が共有されたのはよかった。両コースの院生が混在した修士課程の「総合演習」の実施が定着したことも評価できる。博士後期課程の「総合演習」が充実してきたことも評価できる。
	改善のための提言	－
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
中期目標	社会学研究科に求められる院生像を確認し、指導の充実を図る。	
年度目標	社会学研究科に求められる院生像を確認し、カリキュラムやオリエンテーションなどのあり方を検討する。	
達成指標	社会学研究科に求められる院生像を教員間で確認する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	責任ある研究活動を遂行できる大学院生を養成するため、「研究倫理 eラーニングコース (eL CoRE)」の受講に関して従来のオリエンテーションに加え、教授会での周知や基礎演習の担当教員からの周知も行い、受講率の向上を図った。
	改善策	－
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	正規の必修科目で「研究倫理 eラーニングコース (eL CoRE)」の受講促進が図られたのは高く評価できる。
	改善のための提言	正規の必修科目の授業の一環として、「研究倫理 eラーニングコース (eL CoRE)」の受講の確認を行うことが検討されてもよい。
評価基準	学生の受け入れ	
中期目標	教育課程と教育内容のあり方の議論を参考にしながら、入試制度の見直しを図る。	
年度目標	現行入試制度における現状と課題について確認する。	
達成指標	現行入試制度について教員間で議論を行い、現状と課題について確認する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	現行入試制度について議論を行い、入試状況、出題への教員負担が重いことなど、課題を執行部と教務委員で確認した。
	改善策	－
	質保証委員会による点検・評価	
所見	潜在的に感じられていた入試業務の負担感が、教務委員会レベルで入試日程も含めて具体的に確認、整理されたのはよかった。	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	改善のための提言	両コース統合による入試体制と業務負担の整理を検討する必要がある。また、出願者の動機づけが明確で、書類審査と口述試験によって合否判定を行う学内入試の拡充を検討することも重要である。
	評価基準	教員・教員組織
	中期目標	教育課程と教育内容のあり方の議論を参考にしながら、教員組織のあり方や適切な科目について検討する。
	年度目標	教員組織のあり方や適切な科目について確認する。
	達成指標	教員組織のあり方や適切な科目について、教員間で確認する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	メディアコースの方法系科目群を「選択必須科目」から「選択科目」に、「調査報道実習」などの科目を「メディア研究実習」に名称変更するカリキュラム改革を行うことで、教員の弾力的な配置に対応できる仕組みとした。
	改善策	－
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	メディアコースの科目群のあり方を検討し、科目内容と担当教員を弾力的に運用できるように改革を行ったことは、高く評価できる。社会学コースとメディアコースの統合に向けた検討のためにこの改革が活かされるよう、さらなる議論の進捗を期待する。
	改善のための提言	－
	評価基準	学生支援
	中期目標	研究科として組織的な学生支援の体制のあり方について検討する。
	年度目標	基礎演習と「総合演習」の現状と課題について確認する。
	達成指標	基礎演習と「総合演習」の現状と課題について、教員間で確認する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	基礎演習と総合演習の位置づけについて社会学コースとメディアコースの担当者に確認し、執行部と教務委員会で共有した。
	改善策	－
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	基礎演習と総合演習の位置づけについて、2つのコースの担当者に現状を確認し、執行部と教務委員会で共有したことは、検討の第一歩として評価できる。
	改善のための提言	現状の確認を、執行部と教務委員会から教授会メンバー全体に広げることが、次のステップとなるだろう。また、院生の側から見た両演習の現状と課題について、院生に聞き取りをする価値があると考えられる。
	評価基準	社会連携・社会貢献
	中期目標	社会学研究科にふさわしい社会貢献・連携のあり方について検討する。
	年度目標	これまで取り組んできた社会貢献・連携のあり方について確認する。
	達成指標	社会貢献・連携のあり方について教員間で議論を行い、現状と課題について確認する。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

年度末報告	理由	コースに関する議論が想定以上に進んだことから、社会貢献・連携については現状と課題を確認したものの、議論が不十分であった。
	改善策	コースに関するワーキンググループの議論の方向性に合わせて、社会貢献・連携についても議論を行う。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	2つのコースの統合と社会貢献・連携のあり方は連関する問題なので、議論の順番の問題でやむを得ない面もあるが、社会貢献・連携についての議論が不十分であったことは惜しまれる。
	改善のための提言	コース統合の議論の進捗に合わせて、新しい研究科のあり方にふさわしい社会貢献・連携のあり方についても、同時に議論を深めていくことが望まれる。
<p>【重点目標】 社会学コースとメディアコースの現状と課題について確認する。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 社会学研究科が取り組むべき教育課程と教育内容のあり方について教員間で議論を行う場を設定する。</p> <p>【年度目標達成状況総括】 2022年度の重点目標「社会学コースとメディアコースの現状と課題について確認する」は達成された。入試においてコースを跨いで指導教員を指名するケースがあることやメディアコース設置時の社会人の受験が少ないことなど実績データを確認するとともに、院生との懇談会での意見聴取を踏まえ、教授会懇談会でコースのあり方について議論した。2023年度に両コースの統合に向けたワーキンググループを設置し「社会学研究科が取り組むべき教育課程と教育内容のあり方について」議論する。</p>		

#### IV 2023年度中期目標・年度目標

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	社会的課題を踏まえ、社会学研究科が取り組むべき教育課程や教育内容のあり方について検討する。
年度目標	社会学コースとメディアコースの現状と課題について整理する。
達成指標	社会学コースとメディアコースについて教員間で議論を行い、現状と課題について整理する。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	アフターコロナ、ウィズコロナにおける授業のあり方について検討する。
年度目標	オンライン授業などコロナ禍における授業の利点や課題などを整理する。
達成指標	昨年度院生から聞き取ったオンライン授業などコロナ禍における授業の利点や課題について整理し、今後の授業のあり方について教員間で議論する。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	社会学研究科に求められる院生像を確認し、指導の充実を図る。
年度目標	社会学研究科に求められる院生像を整理し、カリキュラムやオリエンテーションなどのあり方を検討する。
達成指標	社会学研究科に求められる院生像を教員間で整理し、カリキュラムやオリエンテーションを見直す。
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	教育課程と教育内容のあり方の議論を参考にしながら、入試制度の見直しを図る。
年度目標	現行入試制度における現状と課題について整理する。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

達成指標	昨年度教員での議論や院生から聞き取った現行入試制度における現状と課題について整理し、教員間で議論する。
評価基準	教員・教員組織
中期目標	教育課程と教育内容のあり方の議論を参考にしながら、教員組織のあり方や適切な科目について検討する。
年度目標	教員組織のあり方や適切な科目について整理する。
達成指標	教員組織のあり方や適切な科目について整理し、教員間で議論する。
評価基準	学生支援
中期目標	研究科として組織的な学生支援の体制のあり方について検討する。
年度目標	基礎演習と総合演習の現状と課題について整理する。
達成指標	基礎演習と総合演習の現状と課題について整理し、教員間で議論する。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	社会学研究科にふさわしい社会貢献・連携のあり方について検討する。
年度目標	これまで取り組んできた社会貢献・連携のあり方について確認する。
達成指標	社会貢献・連携のあり方について教員間で議論を行い、現状と課題について確認する。
<p>【重点目標】 社会学コースとメディアコースの現状と課題について整理する。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 社会学コースとメディアコースの統合に向けたワーキンググループを設置し、現状と課題について整理を行い、教員間で議論を行う。</p>	

### 【大学評価総評】

2022年度大学評価結果の総評では、①修士課程での論文執筆に向けた研究活動を支援する「総合演習」の2つのコース合同での実施、②博士後期課程での学術雑誌への論文投稿に向けて模擬査読を行う「社会学総合演習A」、③英語による研究成果の公表のための「社会学研究1」の開講など、リサーチワークとコースワークの密接な連携が評価されていた。社会学研究科では、これら①～③について、2023年度においても継続して取り組んでいると評価できる。

2022年度の重点目標「社会学コースとメディアコースの現状と課題について確認する」は達成されており、院生からの意見聴取を踏まえて、コースのあり方について議論した点は評価できる。さらに2023年度に両コースの統合に向けたワーキンググループを設置し「社会学研究科が取り組むべき教育課程と教育内容のあり方について」の議論が継続されている。質保証委員会の所見のとおり統合に向けた具体的な議論の進捗を期待する。

また、教育方法に関することで年度目標に掲げられていたオンライン授業などコロナ禍における授業の利点や課題などの確認については、院生懇談会での聞き取りを行いその結果を教授会で共有しており、それを自己点検・評価シートの特色としても掲げている。確認した結果をもとに留学生の交流機会確保のためにオリエンテーションを対面に切り替えて実施するなど、改善・向上に取り組んでおり評価できる。

学生の受け入れについては、2023年5月1日時点での収容定員充足率が基準に抵触している。その原因と課題については把握しており、2023年度に設置したワーキンググループで議論をすることになっており、改善が望まれる。

今後も手厚い指導体制による教育の質保証と並んでこれまでの社会貢献面での実績を広く社会に周知し、一層の学生確保につなげていくことを期待したい。

### 【法令要件やその他の基礎的な要件の充足状況の確認】

2023年度自己点検・評価シートに記載された	法令要件やその他の基礎的な要
------------------------	----------------

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

Ⅱ 自己点検・評価（１）点検・評価項目における現状を確認	件が充足していない箇所がある
＜法令要件やその他の基礎的な要件が充足していない項目＞	
・2. 3①【2023年5月1日時点】研究科・専攻における収容定員充足率は、下記表1の数値を満たしていますか。	

---

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。